

注目度急上昇の

黒田官兵衛 その人となりに迫る！

官兵衛の故郷・姫路市では、世界遺産・姫路城の平成の大修理が大詰めを迎えています。城の南にある家老屋敷跡公園内に「ひめじの黒田官兵衛 大河ドラマ館」が、城内にある櫓には「官兵衛の歴史館」が今年1月にオープン、見学者で大にぎわいです。ここに来て、注目度急上昇の黒田官兵衛、その人となりを、「播磨の黒田武士顕彰会」理事で、ひめじ観光大使も務める今藤久夫さんに解説してもらいました。

人を大切に
稀有な武將

「播磨の黒田武士顕彰会」の最大の目標は、黒田官兵衛の大河ドラマ化でした。顕彰会は8年前から活動してきましたが、予想よりも早くに決まって、うれしい反面、これは大変なことになったぞと(笑)。

その官兵衛を一言で表せば、「人を大切にする武將」。戦に明け暮れる中にも、敵味方関係なく命を大切に、戦国の世にあって稀有な武將だったんです。まず説得によって降伏を勧める。説得がうまくいかない場合も一気に城を攻めることはせず、兵糧攻めや水攻めでプレッシャーをかけ、傾合いを見て

また説得する。あるいはまた、四方を囲まず一方は開け、逃げ道を残しておいてやる。あくまで敵將を降伏させることを目的としたんです。ですから敵の兵は許します。相手の兵は命を救われ、喜んで官兵衛のもとで働くようになります。敵將を詰めて勝ち、取った駒は味方として使用する点では、将棋の戦い方なんです。

多彩な能力を持った武將

官兵衛は、50回を超える戦で負けを知らず、豊臣秀吉を天下人に押し上げ、稀代の軍師と呼ばれています。軍師としての能力は卓越していますが、それだけではないんです。政治

家であり、キリシタン大名であり、交渉術にたけた外交官でもあり、教育にも意欲を見せる。そこが、この人の面白く、また奥深いところなんです。

官兵衛は、大将には文武双方が必要であり、それも平時に武を忘れず、乱世に文を捨てないことが大切と考えました。特に、乱世に文を捨てると、家臣、領民を惹きつける力が薄れ、彼らの忠義の気持ちもすたれるので、一時の勝利を収めても長続きしないと考えます。そのような考えは「神の罰、主君の罰よりも臣百姓の罰おそるべし」との民を大切に

質素に暮らしました。また、他人に施す時には財を惜しまなかったといわれています。まさに官兵衛の一生は「われ人にこびず、富貴を求めず」です。人とは秀吉を指しているでしょう。富貴を求めないから、自分の考えを貫き、人にこびる必要もなかったのです。秀吉の変節に対して、官兵衛は「こびない、ぶれない、常に先の先を見越して動く。だから、没落していく戦国武將が多かった中で、黒田家は生き残っていったんです。」

なぜ今、「官兵衛」なのか

なぜ今、官兵衛か。戦乱の世にあつて、大局からものを見、先を読む知力と眼力。あるいは、人への温かみを忘れなかった生き方。そこに、閉塞し殺伐とした今の世の中を変えるヒントがあるからではないでしょうか。戦国の世をできるだけ武力を使わないようにして勝ち抜き、現代まで続く黒田家の礎を築いた官兵衛の行い、言葉には実績に裏付けられた重みがあります。「官兵衛哲学」と称されるこれらの教えには含蓄があり、そこには成功の秘訣が詰まっていると言えます。日本を元気にするために、みなさんもぜひ、官兵衛に学んでほしいですね(笑)。

われ人にこびず 富貴を求めず

天下統一を果たした秀吉は、官兵衛の能力の高さゆえに脅威を感じ、またキリスト教の信仰を捨てようとし、いよいよ官兵衛を遠ざけ、その功績にもかかわらず冷遇するようになり、官兵衛は、キリスト教を捨てれば秀吉からもっと大きな領地を約束されていたにもかかわらず、信仰をやめることはありませんでした。そして、戦国を勝ち抜き豊かな生活ができたにもかかわらず、日々

姫路・播磨には、官兵衛が築いたと考えられる石垣がある姫路城をはじめ、大河ドラマなどで紹介されているゆかりの地がたくさんあります。この機会に、ぜひご覧ください。



〔福岡市美術館蔵(黒田資料)〕

黒田官兵衛 略年表

HISTORY

- 1546年 天文15 御着城主・小寺政職の姫路城代・小寺職隆の嫡男として姫路で生まれる
- 1567年 永禄10 志方城主・榑橋伊定の娘・光姫と結婚する。父・職隆が隠居し家督を継ぐ。小寺家家老となる
- 1568年 永禄11 嫡男・松寿丸(後の長政)が姫路に生まれる
- 1569年 永禄12 龍野城主・赤松政秀を青山で迎撃し龍野に追い返す(青山・土器山の戦い)
- 1575年 天正3 主君政職に天下の大勢を説き信長への帰順を決意させる。岐阜城に赴き信長に中国平定策を建言する
- 1576年 天正4 姫路城攻撃のため英賀に上陸した毛利方を破り(英賀合戦)、信長から感状を受ける
- 1578年 天正6 有岡城に赴き荒木村重の説得を試みるが幽閉される
- 1579年 天正7 有岡城が落城し救出される
- 1580年 天正8 秀吉に姫路城を譲り、改築を勧め、築城責任者を命じられる
- 1582年 天正10 本能寺の変で信長死去。備中高松城で毛利と講和し、中国大返しを決定して、秀吉に従い明智光秀を討つ
- 1584年 天正12 このころキリスト教に入信する
- 1586年 天正14 九州攻めに軍監として加わる
- 1587年 天正15 秀吉から豊前国6郡12万石が与えられる
- 1590年 天正18 小田原城に単身入り北条氏との講和をまとめ、秀吉の天下統一成る
- 1592年 文禄元 朝鮮攻めに加わり渡海する
- 1600年 慶長5 関ヶ原の戦いで家康が勝利。官兵衛は九州の西軍の城を攻める。長政は戦功により筑前52万3千石を与えられる
- 1604年 慶長9 京都伏見屋敷で病死。享年59歳。福岡の寺院、教会で葬儀が行われる

今藤久夫さん

こんどう・ひさお●黒田家の現当主、黒田長高さんを名誉会長に、会員約200人を擁する「播磨の黒田武士顕彰会」理事。黒田官兵衛とその重臣たち「黒田24騎」をたたえ、広く知らしめる活動を展開中。今藤久右衛門の名で、ひめじ観光大使も務めている。

